グリニッチ福音キリスト教会
Manna マナ039
週報 928 付録
2009年1月18日

【先週のメッセージより】

主イエスのバプテスマのゆえに

マタイ3:1～6,13～17

●バプテスマのヨハネの宣教は当時のユダヤに対して大変大きなインパクトを及ぼした。彼のメッセージのポイントは：

1）天の御国が近づいたから悔い改めよ。
2）必ず御怒り（さばき）が来る。
3）自分のあとから聖霊と火のバプテスマを授ける方(メシヤ)が来られるので備えよ。

であった。ここで大切なことは、実に多くの人が彼のメッセージに実際に応答し、洗礼を受けたことであった。何かを本当に理解したことは行動が伴って初めて証明される。ヤコブ2:18～24参照。私たちも今神から示されていることがあるなら躊躇をせず、実行に移そう。

●イエスは罪無き方であるにも関わらず、バプテスマのヨハネから洗礼を受けた。主の洗礼は、1）主の宣教の開始を示し、2）主が人の罪を十字架で背負うことの予告となった。主ご自身が十字架で死ぬことをバプテスマと呼ばれた。

●しかしさらに、主の洗礼で起きた三つのこと、天が開け、御霊が下り、神の子と宣言されることは、イエスを信じるものたちが、やがて、体験することになる三つの新しい現実をも指し示していた。

1）天が開いた･･･信じる者たちに対しても今や天が開いている。
2）御霊が下った･･･信じる者たちにも助け主なる聖霊が与えられる。
3）神の子と呼ばれる･･･信じる者たちにも神の子供とされる特権が与えられ(ヨハネ1:12)イエスを長兄(ロマ8:29)と呼ぶようになる。

イエスの洗礼はこのような意味では、全ての人々がペンテコステ以降受ける洗礼のモデルとなり、主ご自身がその第一号と成られた。そして、およそ主に従うと思う者たちに対しては、最初の従順のステップとしてご自身にならい、洗礼を受けるように求められたのである。

●洗礼は主に対して SURRENDER-降参することの証しである。人生の主導権を100％明け渡すわけであり、自らをVULNERABLE-影響を被る立場に置くことになるので恐れは当然ある。しかし、神の全き愛に信頼して一歩踏み出す時、私たちはそれまで知り得なかった「自由」を体験し、従順を通して与えられる喜びを知るようになるのである。■

【今週の英語】*Adrian Rogers "Expedience of Obedience"より*

The Christian railroad runs on two tracks, Trust and Obey.　The old T & O is the railroad of redemption.

キリスト者の列車は信頼と従順の二本の線路を走る。あの古きＴとＯこそ救いの鉄道である。

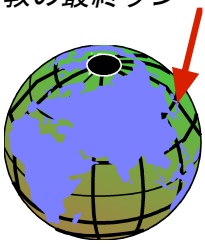
【今週の暗唱聖句】

詩篇113:3　「日の上る所から沈む所まで、主の御名がほめたたえられるように。」

●アメリカ東海岸からすれば、日本は日の上る大西洋を越えてさらに東の彼方、またアメリカ西海岸からすれば日本は日の沈む太平洋の果てにある。詩篇記者は3000年も昔から、世界中の人々に主をほめたたえるように呼びかけている。

●日本宣教の難しさは世界の宣教学者たちの間でも「不思議」とされているが、REVIVAL JAPAN 12月1日号において関西聖書学院院長の太田裕作氏は***「日本の宣教は難しい。宣教が自由に許される国で、一人の魂の獲得にこれほどの労力を要する国は世界で極めて珍しい。」***とした上で、日本の宣教が今まで進まなかったのは、神が日本を世界宣教の「最終ランナー」と指定されているからだ、と氏の確信を語る。

●太田氏は次のようにも語る。日本の宣教が進まなかったのは、***①日本人が不真面目で霊的なことに関心がないからではない。②宣教師や牧師が不熱心だったからでもない。③神さまに愛されていないのでは決してない。④歴史的にのろわれているということも間違っている。***そして日本宣教が遅れているのは、***①時と時代を支配しておられる神さまの主権による。②福音が東回り（インド・中国方面）でなく、西廻り（ローマ・ヨーロッパ）であったためであり、③日本は宣教の最終ランナー、最終走者（アンカー）の一員としてされているから***だ、と言う。●日本もまた主をほめたたえるようになるという太田氏の確信は、今週の暗所聖句のうちに既に主ご自身の御心として示されている。このことを覚え、主の憐れみの日を待ち望みつつ、忍耐を持って進みたい。■



【聖霊について】今年の年間目標を「御霊に導かれて進もう／神の子供として成長する」としましたので、当面このマナの紙面を通して共に聖霊について学んで行きたいと思います。ご期待ください。■